

世界最大の霧箱（登録番号 SH-2009-2）



図 1. 世界最大級の霧箱。宇宙線が霧箱を貫いた瞬間に 4 つのピストン(左)で霧箱内を減圧すると、宇宙線が飛んだ跡に、飛行機雲ができるようにアルコールの雲が発生する。高さ:125、横幅:132、奥行き:73(cm)。

寄贈：大阪市立大学宇宙線研究所

霧箱とは放射線や宇宙線を観察する装置です。科学館にはデモンストレーション用のものがあり、絶え間なく自然放射線が姿を現しています。図 1 は岡山県三石の大阪市立大学宇宙線研究所（宇宙線研）で保存されていたもので、世界最大級です。宇宙線研の観測現場、鉄道の電化で廃止されたトンネルの泥中から発掘されたそうです。2002 年に発掘現場へ調査に出かけました。図 2 はそのトンネルの入り口で、1 m ほど土砂が堆積していました。中は蒸気機関車のススで真っ黒になったレンガ壁で、細長い、狭い、真っ暗闇な空間。息が詰まりそうでした。宇宙線研はかつて日本を代表するところで、世界に誇る実績を残しています。この霧箱はその当時に使用され、そのまま放置されていたそう



図 2. 三石のトンネルの入り口

です。かつては科学者たちの熱い研究活動が毎日繰り広げられていたのですが、調査に入った時は観測装置が細々と稼動しているという状態でした。今日の巨大科学を背景に、その後宇宙線研は廃止の運命となり、現在は存在しません。この霧箱は、他に例を見ない巨大なものですが、それだけでなく、時代の流れを語る逸品なのです。

齋藤吉彦（科学館学芸員）